

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関する  
第1回(平成24年度)現地調査結果について

平成24年 5月21日

福島県原子力安全対策課

福島第一原子力発電所において、4月上旬に4号機燃料プール冷却設備が停止するなど、仮設設備でのトラブルが繰り返されたことから、福島県は東京電力に対して、4月13日に安全管理の徹底を申し入れたところ、5月18日に改善対策をとりまとめた報告書が提出されたことから、東京電力の取組状況について確認するため、県と大熊町、双葉町、楢葉町\*、富岡町\*は、事故後7回目(平成24年度では1回目)となる現地調査を実施しました。

その他、がれき置き場や敷地境界に設置されている放射線モニタリングポストの環境改善状況を確認しました。その結果は下記のとおりです。

(※オブザーバーとして参加)

記

1 確認状況

- (1) 日 時 平成24年5月21日(月) 午前11時~午後5時30分
- (2) 場 所 福島第一原子力発電所、Jビレッジ
- (3) 確認者 福島県 小山部参事兼原子力安全対策課長 他2名  
安江原子力センター所長  
大熊町 秋本企画調整課長 他1名  
双葉町 相楽企画課主査  
楢葉町 松本企画課主任主査  
富岡町 渡辺生活環境課主幹兼課長補佐 他1名

2 確認結果

- 窒素ガス分離装置における信頼性向上の取組について、配付資料及び現地調査により確認した。
- ・ 配布資料により、停止した原因の調査状況、今後実施する対策・運用として停止した際に早期に発見できる遠隔監視システムを構築したこと、停止した際の再起動に迅速に対応出来る体制を整えたこと等を確認した。
  - ・ 遠隔監視室において、新しく設置した遠隔監視システムのデータ表示画面等を確認するとともに、現地において遠隔管理システムの監視カメラ等を確認した。
- 4号機使用済燃料プール循環冷却システムにおける信頼性向上の取組について、配付資料により確認した。

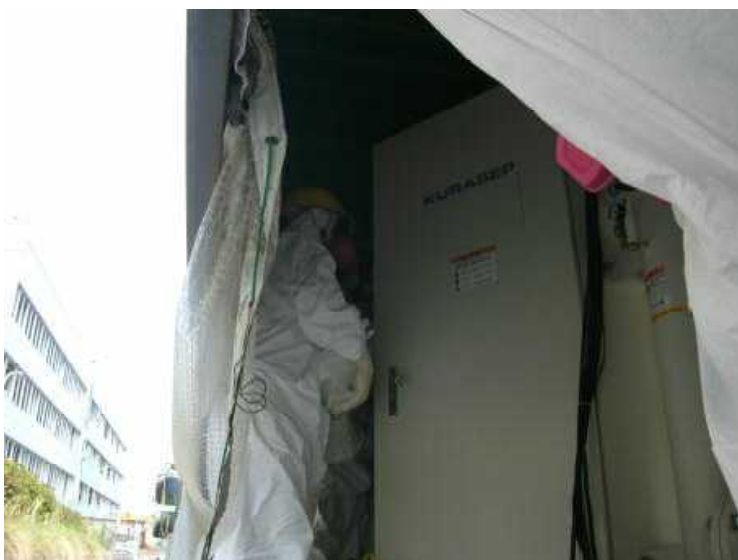
- ・ 配付資料により、停止した原因は、流量計への空気の混入によること、対策として差流量値の監視強化、傾向分析を行うとともに、定期的な系統内の空気抜きを行う等を確認した。
  - ・ 現地において、使用済燃料プール循環冷却系に接続されている塩分除去装置を確認し、接続配管の敷設状況を確認した。
- 水処理設備における信頼性向上の取組について、配付資料及び現地調査により確認した。
- ・ 配付資料により、RO廃液移送ホースの漏洩の原因と、その対策としてこれまでの塩化ビニール製配管からポリエチレン製配管に順次取り替えていくとともに、ホース接続部の抜け防止対策をとったこと、土嚢による堰を設置したこと、監視体制を強化し漏洩評価チームを結成した、等の説明を受けた。
  - ・ 遠隔管理室において、流量変化監視等の表示画面を確認するとともに、現地において、堰の設置状況、ポリエチレン製配管への取替状況、監視用カメラ、検出器の設置状況を確認した。
- 敷地内のがれき置き場において覆土式一時保管施設の設置工事の状況を確認した。
- ・ 配付資料により事故収束作業に伴い発生したガレキ・伐採木の管理状況、覆土式一時保管施設の仕様を確認した。
  - ・ 現地において覆土式一時保管施設の設置工事作業状況を確認した。
- モニタリングポストの周辺環境改善対策の状況を確認した。
- ・ 配付資料により、周辺環境改善として、周辺の森林伐採、表土除去、遮蔽壁設置等をおこなったこと、その結果目標値である $10\mu\text{Sv/h}$ 以下を達成したことを確認した。
  - ・ モニタリングポストN o. 7の設置されている現地において、遮蔽壁等の周辺環境改善対策実施状況を確認した。
- 4号機原子炉建屋の健全性確認のための点検について確認した。
- ・ 配付資料により、4号機原子炉建屋の健全性確認方法として、使用済燃料プール及び原子炉ウエルの水位測定による傾きの測定、外壁面の定点測定による傾きの測定、建屋コンクリートのひび割れの目視点検及び非破壊検査などを継続的に実施するとの説明を受けた。



・免震重要棟 遠隔監視盤



・窒素ガス分離装置



・窒素ガス分離装置の計装ラック  
ここに遠隔監視用カメラを設置  
している。



- ・ 4号機使用済燃料プール循環冷却装置塩分除去装置



- ・ 淡水化装置配管  
これまでの塩化ビニール製配管からポリエチレン製配管に交換している。



- ・ がれき置き場  
数メートル掘り下げた後、遮水シートを敷き詰める。